

## 市からの支援物資、熊本に到着

平成 28 年 4 月 19 日に厚木を出発した物資輸送班が 20 日、被災地である熊本県益城町に到着しました。

北熊本サービスエリアは、各地から熊本方面へ向かう自衛隊・消防隊が集結しており、緊急車両で埋め尽くされている状態です。反対車線には、任務を終えて戻る車両が多数ありました。

避難所となっているグランメッセ熊本には、多数の被災者が避難し、テントも多数建てられている様子です。同避難所に避難していた西田沙希さん（西小 1 年）は「家が全壊して帰れないけど、家族がみんな無事でよかった。毎日車の中で寝泊まりするのがつらいけど、友達もたくさんいて安心する。早く学校に通いたい」と話します。南阿蘇村から夫婦で避難してきた大山純男さん（80）は「自宅は 1 階がつぶれていた。ここへ避難して来てすぐのときは物資が不足していたが、今は全国各地からの支援で充実している。いつまで避難所にいられるのか、いつ追い出されるのか、不安は募る一方」と悲痛な面持ちで話します。



道路は隆起し、信号も倒れ掛かっている



倒壊している被災地の家屋

## 支援物資、ましきメッセ「もやい市」へ

平成 28 年 4 月 20 日、厚木市から出発した物資輸送トラックが益城町の J A に到着しました。現地でもしきメッセ「もやい市」の山野一平実行委員長と面会。飲料水など運んだ物資の一部を届けました。

山野実行委員長は「水、下着、トイレトペーパーの不足が目立ち、支援を求める声大きい。大きい避難所には物資があるが、小さい避難所にはまだまだ届いていないところが多い」と話します。

市から運んだ物資はこの後、物資集積センターに移動し、各避難所へ分配される予定です。



山野委員長と面会。支援物資を届ける



厚木市から届けた支援物資

## 益城町支援物資集積所に無事到着

平成 28 年 4 月 20 日の午後 3 時 30 分ごろ、市の支援物資を積み込んだ輸送トラックが益城町の J A 集積所に到着し、輸送した物資の荷降ろしを終えました。

荷降ろし作業は、ボランティアで被災地入りしていた学生らも多数協力。

500 ミリリットルの飲料水 9600 本、毛布 500 枚、トイレトーパー2000 個、生理用品 5808 枚、おむつ 5400 枚、810 グラムの粉ミルク 24 缶、肌着セット 500 着、簡易トイレ 5 セット、脱臭カートリッジ 2000 個が無事、益城町に届けられました。

届けられた物資は集積所で仕分けられ、町内の避難所に分配されます。

支援班はこの後、益城町保健福祉センターに設置された災害対策本部に向かいます。



鹿屋体育大学の学生ボランティアら



学生ボランティア支援物資を降ろす

## 益城町災害対策本部で状況を確認

益城町のJAで支援物資の荷降ろしを終えた後、益城町保健福祉センターに設置されている災害対策本部に向かいました。道中の潰れている家屋は古いものが多く、新しい家は、比較的被害は少ない様子でした。コンビニエンスストアやスーパー、ガソリンスタンドは営業をしています。

災害対策本部で西村博則町長に直接面会し、厚木市からの支援物資の目録を届け、厚木市民の被災地への思いを伝えました。その場で西村町長は小林市長に電話。町長から直接感謝の言葉を頂きました。

災害対策本部で現地の情報を聞いたのち、残りの支援物資を朝市のメンバーに届けに向かいます。



災害対策本部の様子



小林市長に電話をする西村町長

## 益城町にボランティアセンターが開設

平成 28 年 4 月 21 日の被災地は、朝から強い雨に見舞われています。土砂災害を警戒し、一部の地域では避難勧告も出ているようです。

益城町ボランティアセンターは 9 時に開設。支援に駆け付けた人は登録後、各避難所へ派遣され、物資の運搬や清掃などに当たっています。天候が良ければ、倒壊した家屋でのがれきの片付けを行います。

会場にはバスなどで続々と人が集まっていますが、人手は足りていません。登録に来ていた会社員の方（25）は「仕事を休み、佐賀市から来た。少しでも被災者の役に立ちたい」と話していました。

この後は、多くの方が避難されているグランメッセ熊本に向かいます。



雨の中開設されたボランティアセンター



説明を受けるボランティア登録者

## グランメッセ熊本で炊き出しが始まる

避難所であるグランメッセ熊本に到着しました。雨脚がかなり強まっています。避難所には推定 1000 人が避難しています。

炊き出しが始まり、カレーと肉うどん、からあげが振る舞われ、長蛇の列ができています。9 歳の子どもを連れ家族 3 人で避難している小塚由紀恵さん（38）は「温かいご飯が食べられるとほっとする。雨がすごく、疲労もピークに達している」と話していました。

会場では、車内で避難している人も大勢います。豪雨の影響で周辺一帯に避難指示が出たため、車が次々と押し寄せ、駐車場もいっぱいになってきています。亀裂の入った道路も雨で分からないなど、危険な状況です。



炊き出しが始まった避難所



車でいっぱいになる避難所の駐車場

## 益城町で応急危険度判定士に同行

9時過ぎに益城町役場に到着しました。庁舎は被害を受けて室内への立ち入りができないため、通常業務は行っていません。駐車場にテントを張り、水・新聞などを配布しています。周辺は、物資を受け取りに来る人であふれています。

職員の橋本奈菜さん(28)は「水や食料は足りているが、雨除けやテントの代わりとなるブルーシートが足りないという声がかかり多い」と話していました。

周辺を視察すると、アスファルトの道路が地割れを起こし、1mぐらいの段差ができています。地割れでトラックが横転していたり、電柱が倒れたりして、危険な状況です。

町内で応急危険度判定士に同行し、建物の調査の様子を見せていただきました。応急危険度判定では、地盤や外観の様子などにより倒壊の危険性を30分程度で判定していきます。

判定の結果、倒壊の危険度合いにより赤・黄・緑の3色の紙が貼られ、その建物の注意が促されます。やはり危険度の高い赤い紙の建物が多く、被害の大きさをあらためて感じました。

その後、昼過ぎに熊本市へ移動。報道のあった熊本城の様子や熊本市役所を視察しました。益城町に比べると、市内は倒壊も少ない様子でしたが、断水が続いているため、市役所前には給水所が設置されていました。



地割れで横転したトラック



建物の危険度を3色で判定